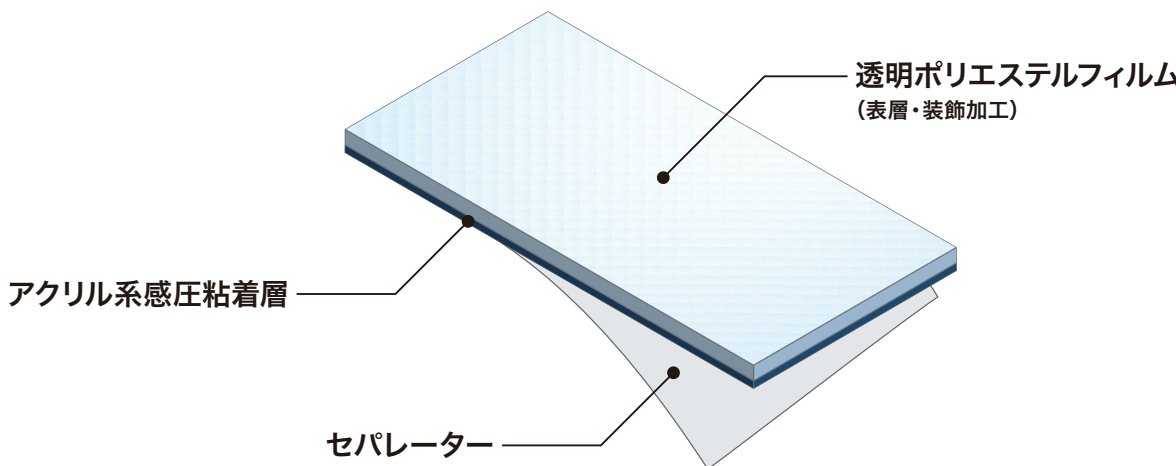


# GLAFIL SIRAKABA(白樺) GD-41



QRコードを読み込むと商品ページが表示されます。

## フィルム構造図



## 製品仕様 (JISA5759 準拠)

製品幅 (mm)	巻数 (M)	総厚 ( $\mu\text{m}$ )	基材厚 ( $\mu\text{m}$ )	用途による区分
1524	30	67	50	該当なし

※用途による区分は適合しているものを表示しています。

## 製品性能

日射 (%)			可視光線 (%)		紫外線 (%)	熱的性能		
透過率	反射率	吸収率	透過率	反射率	透過率	遮蔽係数	日射熱取得率 (%)	熱貫流率
-	-	-	-	-	-	-	-	-

※グラデーションフィルムは測定値が各部で異なるため、数値の公表はしていません。

## 機能性

飛散防止	UVカット	遮熱効果	日照調整	低放射
●	●			
貫通対策	ハードコート	目隠し効果	凹凸面用	その他の機能
				<b>【グラデーション】</b>

※"GD-52 スノーホワイト"をジョイント用として推奨しています。

## 用語説明

### 製品性能および機能性に関する用語

- **日射**  
電磁波として太陽から放射されたエネルギーのうち、地上に到達した波長を指し、JIS A 5759 では「300～2500nm）の領域と定められています。
- **可視光線**  
太陽や照明などから放射された光のうち、人間の目で確認することができる波長（380～780nm）のことです。
- **紫外線**  
日射のうち UVB 域（300～315 nm）及び UVA 域（315～380 nm）の放射のことを指します。
- **遮蔽係数（しゃへいけいすう）**  
日射熱を遮る効果を表す数値で、厚み 3mm の透明フロートガラスを「1.0」として、数値が小さいほど遮熱効果が高いことを示します。
- **日射熱取得率**  
日射熱が室内側に入ってくる割合です。ガラスを直接透過したものとガラスに一旦吸収されて室内側へ再放射されたものを足して表しています。
- **透過率・反射率・吸収率**  
JIS A 5759 に定められた日射領域全体、可視光線領域、紫外線領域など、それぞれにおける割合を示しています。  
【日射透過率・反射率・吸収率】光学的・熱学的エネルギー全体の相関関係を指しているため、遮蔽係数や日射熱取得率などの色々なものに関連しています。（可視光線や紫外線は日射の中の一部分の領域に過ぎません。）  
【可視光線透過率】室内に入る明るさの指標です。高いほど明るく、低いほど暗くなることを示します。  
【可視光線反射率】この数値が高いほどミラー効果が強く発現することを示します。  
【紫外線透過率】低いほど UV カット効果が高いことを示します。
- **熱貫流率（単位：W/m<sup>2</sup>・K）**  
室内外の温度差が 1℃ の時、面積 1m<sup>2</sup> を 1 時間で通過する熱量を表します。数値が小さいほど断熱効果が高いことを示します。
- **飛散防止**  
地震や衝突などでガラスが割れた際、破片の飛散を低減します。
- **UVカット**  
有害な紫外線（300～380nm）を 99% 以上カットし、日焼け（退色）を軽減します。  
※日焼けの原因は紫外線以外の要因もあるため、退色を完全に抑制するものではありません。
- **遮熱**  
日射熱を反射・吸収することで室内への流入を緩和します。主に暑い時期の省エネ効果が期待できます。
- **低放射**  
熱の移動が少なくなるため、暑い時期は外からの熱が室内へ流入しにくく、寒い時期は室内の熱が外へ流出しにくくなります。
- **SRハードコート**  
フィルム表面に特殊樹脂加工を施し、清掃時に擦り傷がつくことを軽減します。（Scratch Resistant）
- **外貼り可能**  
屋外に面した箇所へ施工が可能なものです。外貼り専用ではないため、内貼りとしても兼用できます。

### 用途による区分

種類	日射調整		低放射	衝撃破壊対応 (飛散防止)		層間変位破壊対応 (飛散防止)		貫通防止
	内貼り	外貼り	内貼り	内貼り	外貼り	内貼り	外貼り	内貼り
記号	SC-1	SC-2	LE	GI-1	GI-2	GD-1	GD-2	SF
耐候性(時間)	1000	500	1000	2000	1000	2000	1000	2000

※耐候性：試験における規定時間を表示しています。

### 施工における注意事項

- **熱割れ現象について**  
窓ガラスにフィルムを貼ると、ガラスの日射吸収が高まり、ガラスが日射熱を受け、「膨張していく部分」とサッシ周辺部や影がかかって温度上昇が抑えられた「膨張しない部分」との間に「引張応力」というものが発生します。これがガラスのエッジ部分の許容強度を越えると「熱割れ」が発生します。リスクについてのシミュレーションが可能です。※信頼における根拠やシミュレートに基づいておりますが、その正当性もしくは、完全性について絶対的に保証するものではありません。
- **メンテナンスの方法**  
清掃には柔らかい布やゴムスqueegeeなどを用いて、水洗いをして下さい。（型板ガラス用を除く）汚れがひどい場合は、市販の中性洗剤を水で（2%程度）希釈した溶液をご使用下さい。※アンモニア系・塩素系・その他有機溶剤は使用しないで下さい。